

■日 時	平成27年1月27日（火）10時00分～12時10分
■会 場	仙北市役所田沢湖庁舎 第1会議室
■出席者 委員	大楽委員 橋本委員 田口委員 吉田委員 武藤委員 草薨委員 高橋委員 石橋委員 8名
市 事務局	倉橋副市長 藤村総務部長 運藤総務部次長兼総務課長 鈴木事務事業移転室長 大澤室長補佐
■欠席者	佐々木委員 島川委員 辻委員 高橋委員 堀川委員 田口委員 門脇委員 7名
■記録者	大澤室長補佐

【概況】

・会長の選任について（事務局）

佐々木善一会長から、一身上の都合により平成27年1月6日付けで「会長及び委員の辞退届」が出され、事務局は慰留に努めたものの意志は固く本人の意向を尊重するかたちで受理したところであり会長が不在の状況にある。委員の皆様にはどうかご了承いただきたい。本日配付の仙北市行政改革懇談会設置要綱によれば、第6条の2の規定で、副会長は会長を補佐し会長に事故がある時又は会長が欠けた時はその職務を代理するとのことなので、当懇談会の大楽副会長にその職務代理をお願いしたいと思うが、一方で会長が不在の状況になるので、任期の期間内で新たに会長を選任する方法も一つかと思う。どちらがよろしいか皆様の意見を伺いたい。

※新たに会長を選任すべきとの意見が多数あり、大楽副会長が内容を良く理解しているのでそのまま会長をお願いしたいとの意見で一致。本人からの了解もいただいた。

委員の任期が今年度末までではなく今年5月23日までなので、会長というかたちで大楽委員をお願いしたいと思うがいかがか。（異議なしの声）

規約では副会長は会長が指名することになっている。

※大楽会長より武藤委員を指名する案が出され了承された。

よって、会長に大楽委員、副会長に武藤委員を選任することで決定した。

・会長あいさつ

職務代理だと思っていたら会長ということで戸惑っています。不慣れですがよろしくお願ひします。佐々木会長が委員を辞退する件については、先週私にも電話がありまして、佐々木委員はこの会の他に政策検証委員会委員にもなっており、両方を兼ねるのは自分の考えに矛盾していて気持ちとして相容れないところがあるので辞退したいとのことでした。そういう経過です。

5月23日までの任期でこれから何回開催できるかわかりませんがその間よろしくお願ひします。今冬は12月から雪が降りまして大変な豪雪であり、雪・除雪の事故で田沢湖で犠牲者が出るなど非常に残念なことでした。この事故は流雪溝の使用に関するものだと聞いていますが、今後高齢者の除雪対策については色々な施策を講じていただきたいと思っています。

当懇談会は、今後も色々な有意義な意見を出していただきまして、市の行政改革に関する実施計画書に対する進捗状況に対し意見や要望を述べる会ですが、それにとどまらず市への提言とか

もあげてもらいたいと思います。短い期間ですが当懇談会が有意義な会になりますことを皆様にお願ひしましてあいさつとします。

・倉橋副市長あいさつ

今年度1回目の仙北市行政改革懇談会に出席いただきましてありがとうございます。平成27年になりましたが、行政的に平成27年度は仙北市が誕生してから10年目を迎えることになりました。10年を記念する行事等を予定していますが、何よりも次の10年に向けた市の計画を策定しなければならない年になっています。総合計画策定ですが、その他にも平成27年度中に色々な計画を立てて次の10年に備えたいという年になっています。その中で行政改革につきましても行政改革大綱第3次の5年間の大綱を策定する年になっていますので、先程会長から話しがありましたように、ぜひこの懇談会では進捗状況の検証のみならず市政全般に対して色々なご提言を皆様方からお伺いできれば幸いに思います。今日は25年度の検証ということになっていますが、来年度に向けて行政改革の一環だと思っておりますが水道の業務について検針料金徴収等の業務を民間に委託するという事で進めています。企業局の職員が若干減ることになると思いますし、民間の方に水道料金の徴収等をお願いするという事で徴収率等の向上も図っていきたいと思っています。もう一つ、保育園・幼稚園の民営化を課題として進めてきましたが、平成28年度からの一部保育園の民営化に向けて27年度はその法人化の推進室を立ち上げるということで、これは全く民間の法人に保育園を委託するというのではなくて、市が関与する法人を立ち上げる方向で検討を進めるということです。

今日の案件には出ておりませんが、そうした取り組みもしているということも皆さんにご理解いただきたいと思います。今日は色々なご意見をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。よろしくお願ひします。

・委員と職員の紹介（事務局より）

・案件

第2次仙北市行政改革大綱実施計画書の進捗状況について

大楽会長	それでは議事を進めさせていただきます。何しろ不慣れですので何かありましたらどうか遠慮なくご指摘願ひします。これまでの取り組み内容を簡単に事務局から説明願ひします。
事務局	資料に基づき説明
大楽会長	ただいま事務局より行政改革大綱の平成25年度の進捗結果について説明がありましたが、これはわけてやると昨年みたいに時間がかかりかかると思いますので、全般にわたって皆様方から気が付いたところのご意見、これは言っておきたいこと、ご要望等伺いたいと思ひますがそれでよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

それでは説明のあった進捗結果について皆様からご意見・ご要望を伺いたいと思います。

田口委員

資料2の受益者負担の適正化の次に資料掲載はないとの報告の中で、遊休地処理が10件ほどあってその中の細かい数字が出ましたが、もう一度教えてください。

事務局

遊休地等の売却・貸付の検討について、土地が10件の計画に対して9件、施設が1件の計画に対して1件が処分されたということです。

武藤委員

全般的なことで2点ほどお願いやら指摘したいと思います。まずは会長が辞退したという経緯のなかで、今年度の懇談会1回目が今日になったこと、それは事務局が事務事業移転室になったことも含めて事情があったのでしょうが、そのことと共に今回資料をもらっていますが25年度の資料です。今までどおりにいけばこんな資料になるのです。それはやぶさかでないと思いますが、今の時期になって25年度の説明を受けても私自身はこの資料を見させてもらってもちんぷんかんぷんだし、ましてや26年度の今になってしかもこの実施計画の最終年度が平成27年4月からスタートしますよね、その時にこういう資料がどの程度27年なり次の計画に反映できる資料になっているのか、今までどおりにいけばこのままなのですが、やはり今の時期になりますと、今の時期になってもなお25年度当初という数値があがっている項目がありますよね、そういう項目であれば当然26年度の当初なり見込みの数値を今当然把握されていると思いますし、そのうえにたつてこの表の作りも最終年度の27年度の計画数値はこうだというものを、せっかく資料を作ってくれるのでそういうことを是非配慮してほしかったなど、今年度開会するかどうかはわかりませんが5月までどうかわかりませんが、こういう資料を我々に示してもらってありがたいのですが何のために我々に示すのか、議論の材料にするのかもしれないかもしれませんがこれ単独だけの25年度の数値ということになりますので、色々な業務で大変かもしれませんが我々も今まで色々ところで仕事をしてきた段階で25年度はこうでした26年度はこういう計画なり見込みを持っています、そのうえにたつて計画の27年度はこうですというようなことで、今までの経験ではそうしてきましたし、そんな配慮をしていただけなかったのかなと非常に残念ですし、同じ表を作成するにしてもそういう意図がしっかり見えるようなもので今後お願いしたいということが1点です。

それから去年の5月頃に「がんばる地域交付金」というものが公表されましたよね、そのなかで仙北市が確か10に対して7.9という評価だったで

すね、新聞等で公表されてその当時であれば新しい情報なので関心はあったかと思うのですが今日になりましたので、この評価というものをどう把握されて今後どうこれを改善していくということなのかをお聞きしたいと思います。それは行政改革努力の格差という見出しで報じられました。行政改革を一生懸命やっているところについては10だし、決して10には評価されていないということだと思ったのですが、そのあたりいかがですか。26年の5月18日の魁新聞に大きく出ています。

藤村総務部長

がんばる地域交付金ですが、指標等のお答えするものが今何もなくして申し訳ないです。

武藤委員

たぶん交付金だから財務のほうで何億交付金が来たということで終わったかもしれませんが、その時期は当然話題になる、行革努力ということでありましたので、26年度のことでもありますので、先程の25年度の表だとすると当然外れるのだが、そのへんも含めて26年度もそう評価されているということも関心を持ってもらいたい。

大楽会長

がんばる地域交付金は来るものですか。

武藤委員

各市町村に来るはずですよ。

事務局

ただいま確認します。

大楽会長

我々の2年間の任期というのは、年度から見れば5月24日に委嘱されて今年の5月23日までの2年間ですが任期がおかしいのでは。3月31日でもいいのでは。

藤村総務部長

先程の説明の中で、開催時期がこのような時期になってしまいというお詫びがありましたが、任期も5月23日までということで、組織として決算の確定値が出るのは5月末の出納閉鎖が一つの目安になりますので、確定値としてはそれ以降になりますけれども、できれば今の皆さんの任期中に26年度についての今示したような指標についての比較というか実績をお示しして皆さんにご審議いただきたいと考えています。今年の開催時期がこの時期になったので時期を失ってしまったということについては大変申し訳なかったと思っています。最初に副市長のあいさつの中にもありましたが、26年度の27年度に向けた動きというようなこともありますので27年度の早い時期には26年度の取りまとめ、それから27年度以降の取り組み方針等について皆さんにお示ししたいと思っています。中途半端な時期ですけれ

どもそのようなかたちで、25年度の方はこのかたちですが、26年度分については27年の早い時期にやりたいと思っていますのでどうかその節はよろしくお願いします。

武藤委員

確定数値を出すというのはそのことだと思います。5月時点では無理だと思いますので、見込み数値で我々の議論の材料になるような資料で結構です。前年度の決算がありますのでそれは任期中には無理だと思います。それはそれでわかりますので、把握しているものを、例えば補助金の関係とか、これは当初数値しか今まで載っていない。なぜそうなのかという感じなのですが、あえてそうかもしれませんし、今頃例えば25年度の当初はこうでした、そして26年度の当初も入っていない、もちろん27年の計画も入っていない、そこでどの数字を我々が見て議論すればいいかというのはわからない。統計などの確定数値でなくても、ましてや今の時期は26年度の見込みを当然持っていますし27年度も最終年度がスタートする訳ですのでそのための資料にしてほしいということで申し上げましたので意を汲んでもらえればありがたいと思います。

藤村総務部長

わかりました。十分ご意見は反映させたいと思います。

大楽会長

一般会計の出納閉鎖が5月末日ですので、今武藤委員がおっしゃったとおりそこまでの確定のものを出すのは私も無理だと思いますので、見込み等を示せるように、そうすれば5月にも、これから何回やれるかわかりませんが開催を検討してもらえればと思います。他にありませんか。

吉田委員

観光のほうからですが、2ページ目の1の3、カラ吹き2号源泉については非常にぬるくて観光客からもクレームが来ている訳ですけれども、25年と26年でモニタリングをやると聞いていますが、その結果はまだ出ていないのかどのようにするのかを聞きたいと思います。観光協会の役員会でも問題になっていまして、できれば早めにどのようにするか対策をとっていかないと観光客からのクレームが非常に強く、わかる範囲で結構ですのでお聞きしたいです。

倉橋副市長

温泉事業についてのご質問でしたが、今吉田委員がおっしゃったように既存の源泉が非常に不安定な状況にありまして、温度が特に冬期間低くなっていることで色々な対策を講じていましたけれども、今言われた2号泉のモニタリングは2号泉を活用できるかどうかという調査だと思っていて、抜本的な対策として今考えているのは新しい源泉を掘るということが一つあります。それからもう一つは水沢温泉のお湯でまだ使用されていない源泉があり

まして、そこから高原のほうに引っ張っていくという二つの案を検討していますが、新しく掘るということについてはリスクが伴います。それでまた掘るまでの調査等が必要になってくる、対策が遅いのではないかということが一つ、これまでの取組みにスピード感がなかったことも一つあります。それで掘るということと水沢温泉の源泉を利用させていただきたいということで塚本総業さんと交渉しているところです。今の方向としては水沢温泉の源泉を利用する方向で協議を進めていまして、来年度の予算で具体的な調査費を盛り込んで進めたいと思っています。それによって恒久的な源泉の確保をしたいということにしています。ただ、水沢温泉の権利を持っている会社のほうとその使用料金についてこれから交渉・協議をしなければならないという状況にありますので、温泉事業の採算性も考えながら進めたいと思っています。2号泉のモニタリングは27年度までかかるということで、それを活用するにしても活用しない場合もそれに蓋をしないとダメらしく、どちらにしてもそれにもお金がかかるという状況になっていまして、新しい源泉を掘らない、水沢温泉も使用しない、既存の源泉で対応するとすればその2号泉をまた利用できるとなった時にまた掘らなければならないということで、それはなかなか現実的な対応にはならないだろうという考えを今持っているところです。非常に高原の方々にご心配をおかけしておりまして、先般高原の温泉利用の方々に協議会を作ってくださいまして、今後協議会の中で色々な説明なり協議をさせていただくことで今進めています。また、今は緊急の対策として、あまりに温度が低いため分湯槽のそばにボイラーを設置し加温して供給しています。寒い時期ですのでほぼフル稼働で活用しています。温度が低いことに対しては今かなり対応しているというつもりでいます。

吉田委員

いずれにしても、だいたい水沢温泉の源泉を利用していくという方向で、新しいのは掘らないということですね。

倉橋副市長

その方向で今協議を進めています。新しく掘るにはリスクがあると思います。

吉田委員

新しい源泉を掘るとなると乳頭温泉組合からも反対があつて、できれば利用されていない水沢の源泉を塚本総業さんに安くしてもらって利用できればと思いますが。わかりました。

大楽会長

私も角館の方から温泉付きの中古の住宅を買った方がいて温泉がぬるいという相談を受けて企業局に相談したのですが、その時は、去年のことでしたが何百万円か予算をつけてやれば出るようになるかもしれないという話しだったがそれは出なかったです。

- 倉橋副市長                    そのとおりで、抜本的な解決のためには新しく掘るか水沢温泉のお湯を利用させていただくかの二つしかないことになります。
- 大楽会長                        まずは利用者の方々に協議会を作ってということですね。
- 倉橋副市長                    市と話し合う場をもうけさせてもらったということです。今まで全くなかったものですから。
- 大楽会長                        一部はボイラーで加温して分湯しているということですね。
- 倉橋副市長                    当面はそのような対策をします。
- 橋本委員                        一点だけ、計画に対して実績が上回るとか達成できないというのはやむを得ないと思います。ただ、計画達成に向けて継続して努力を続けていくことが大事だと思いますが、実績の欄にゼロというのが2件ばかりありますけれども、その中で1－1行政評価システムの推進ということで、外部評価の実施がゼロになっています。これはこの分野について市長が力を入れている分野ではないかと思いますが、どういうかたちでやればいいのかこの後検討させることと思いますが、ここに実績の数値があがるように庁内で検討していただきたいと思います。
- 藤村総務部長                 前の会長が辞めた理由の中に政策検証市民委員会があり、それが外部評価にあたる、無理をすれば組み込めるかなと思うところもありますが、この行革大綱の中でのイメージしたものと少し違うのでゼロとはしています。市長の思いとしては政策検証市民委員会というのが包括した外部評価という思いはあるかもしれませんが、市長のイメージした外部評価というのはその政策検証と行革大綱上の外部評価というものに少し差があってこのような形になっています。具体的にゼロというのはまずいということですのでここについては整合性を図って実績の数値として表せるような計画というかしっかり対応したいと思います。
- 草薨委員                        今間もなく27年度に入る。26年度の実態というものを市民がピンと感じるようなものが出てこなければ進捗度合いが無いと言ってもいいくらいではないかと思う。温泉の問題で、私は36年からずっと温泉を見ていますが、地下資源のことであるからそれなりの科学的な技術の中で進んでいかなければならないものが、あそこに給湯器を仕付けたのはかなり前にもずっとやっているのです。足りなければ必ず給湯器で沸かして供給するしかできないという実態がこの時代だから進めていかなければならない。それを賄って

いるところとそれを活用している実態がピタッと来ないのではないかと思います。いつも湯を沸かして足していれば良いという時代ではないと思う。そのへんをもう少し、平成25年ではこうで26年度でこうやってこうで27年度ではどんなシステムにしていかなければいけないというところまでもっていかないと改革の意味がない。実施計画ばかり組んでも計画倒れで終わっているのが実態ではないかと思う。特に温泉について申し上げたが。

だから、25年度にはこんな結果がでた、26年度にはこうなった、27年度はこれだけはここでやっていかなければ仙北市が大変だというようなものが出てこなければ、いくら我々がここに来て論じても進まない。進まないどころか後退する。いつも同じような答えしか出てこない、そうではなくてその答えも進捗度のある答えを出せるように考えていく必要があるのではないかと思います。全体的にそんな感じがするのでそのあたりは十二分に当局では示唆しながら進めていただければいいと思います。

石橋委員

実施計画を全体的に見渡してみますと、旧自治省の指標によって地方公共団体がやりなさいと言われた事務改善のほうで7割ぐらいいあるのではないかと思います。当然やらなければいけないようなことを今やっているということは遅れすぎたのではないかという感じがしています。その中で10-1の地域住民組織の育成という項目があります。これは項目としてとても良い文言ですが、その中の取組みで地域運営体の育成という項目があります。この項目は数値目標を見ますと23年で終わりで24・25年度は無かったということなんですね。そこで無ければ無いでいいのですが、前回にも提案したのですが、ある地域の柿について、ほとんど活用されないでぶら下がっているから何とかしてその柿を利用して柿の里づくりをしようじゃないかということで、そこに4百万円ぐらいの補助金をその地域の運営体に市では出している訳です。中身を聞いてみますと、どういうふうにその4百万円が使われたのか全然わからない、例えば私は質問しましたが、その地域の構成員がどれぐらいいるのか、生産する地域の柿の生産量はどのぐらいあるのか、構成員の柿の生産はどうなっているのか、柿の販売もするとのことなので販売数量についてはいくら販売しいくらの販売総額なのかということがこれも全然わからない。それから販売の場所や納入業者そういうものも把握していない、そういう状態ですと4百万円なるものがどういうふうに使われて市民生活の中にそれが良かったのかどうかということが全く出てこない、ですから地域運営体に対する補助金については結末というものをきちんと当局で把握していない、全くその市民の税金というものは無駄な使い方をしていると言わざるをえません。地域運営体に対する補助金というのは相当な額になると思います。旧町村単位いわゆる9地域にわたってそれぞれ補助金が出されていますが、ある地域についてはイルミネーションを付けたとかあ



る地域については自然水の水飲み場の集約に使ったとか色々あります。そういう使ったものが市民生活の中にどのような貢献をしているのか、また観光資源としてどのようなウエイトを占めているのか、そのような効果というのが全くここに表れてきていないです。また把握していないようです。私は地域運営体については否定するものではありません。ですが市民の税金がそれぞれ何百万円・何千万円と使われているのにその結果を市当局が把握していないということはまさに税金の使い捨てだと言わざるを得ないと考えます。今までの地域運営体に対する補助金については全部洗いざらいどういう効果があったのか、市民生活にどのような好影響を与えたのかということとを皆さんに公開する必要があるのではないかとこのことを申し上げたいと思います。

藤村総務部長

最初の質問ですが、地域運営体の設立については設立した数を書いていまして実際は23年度までに9団体になっています。それ以降も今年度まで9地域運営体があるということで表の作り方が誤解を与えるかもしれませんが、あくまでも設立した年度を書いたということですのでご理解願いたいと思います。それから使用実績といいますか決算といいますかその部分の話ですが、全然わからないというのはどういうことですか。どなたが全然わからないのか、市としては決算上で事業についてはどのような用途をしたか実績も提出していただいていますので全然わからないというのが疑問ですが。

石橋委員

市ではどの程度の資料をもらって了解しているかはわかりませんよ。例えばこの資料は昨年もらったのだが、24年に例えば写真の展示会を角館プラザでやるとかという計画としてはもってやっている訳ですよ。今26年ですが去年あたりもやっている訳ですよ。そんなに古いものでなくとくに過ぎ去った問題でもないのです。おそらく私が今申し上げたことは皆さんは所管でないからわからないと思いますが、地域運営体というものは今後も続かないということですか、23年で終わりということですか。

藤村総務部長

いえ、先程も言いましたけれども、表の作り方が設立した数しか書いてなかったもので、設立以降はずっと続いていますので9運営体があるということです。無くなるという想定はしていません。事業についてですが、こういう事業をやりますというものを年度初めにいただきまして、それにはどれぐらいの経費がかかりますということで申請してもらい、それについて妥当だと判断した部分について認めるということで、当然実績報告についても提出してもらっているということです。今ご質問にあったことに具体的に答えるだけの材料がここにはありませんけれども、市としてただ出しっぱなしということではないということをご理解いただきたいと思います。資料については

今すぐ出せる状況ではないですが取りまとめたものがありますので、それについては後日・次回でも皆様のほうに提示したいと思っています。

草薨委員

今の関連ですが、効果について、こういう計画でこういうふうを実施しました、その効果がこういうふうに現れた、数字で言うと赤字か黒字が出てこなければ我々は納得というよりも全てが言いようがないです。市政に対するそのような結果が目で見えるなり耳で聞いて初めて良い悪いを判断するのであって、それがきちんと出てこなければいけない。色々なところで色々な模索をして色々な苦勞をしてやっても大変ではないかなと考えました。地域運営体の結果はまだモヤモヤとするものがある感じがしますので、そうではなくて行政としては指導していく立場ですので十二分にこれから配慮する必要があると思います。

倉橋副市長

今石橋委員がおっしゃったように、市のお金を使って事業をやっていることですので、成果なり効果がわかるようにしてもらわなければならないのは当然のことだと思いますので、次回に地域運得体の資料を出す際にそこも充分市として考えて皆さんにお示ししたいと思います。

石橋委員

本題から外れるかもしれませんが、行政改革懇談会というのは設置要綱に書いてあるとおり、所掌事務にその他行政改革の推進に関する事項ということは、内務事務とか内務手続きとかそういうような問題だけでなくマクロ的には行政政策・財政そういうような問題まで切り込んで色々提案してもいいのですか。行政改革的には全部含まれるからそういう問題までもこういうことをやったほうが良いとかこれは無駄だとかということまで言及してもいいのでしょうか。

倉橋副市長

よろしいです。特にここだけということはないです。

大楽会長

市で計画し色々な人の意見を聞いて立てた行政改革大綱ですけど、それについての進捗状況について説明を聞いてそれについて意見・要望を言う機関・会なのですが、石橋委員が言うようにこれからのことを考えて、こうやったら良いとかああやったら良いとかの提言などはどんどん私は出してもらったほうが良い、苦情等もあると思いますので出してもらって、建設的な意見等そういうものもどんどん出していただければ良いと思っています。

石橋委員

色々この前も少し申し上げたが、市の説明を聞いていると弁解答弁・言い訳のようなものしか聞こえてこない気がして、新しくひっくり返って天井を向くようなことを言うようであれば仙北市そのものももっともっと変われ

るようなものがあると思うけれども、このままの状態では全進歩も何もないような気がする。例えばディスティネーションキャンペーンや日本の祭りとか何とかは仙北市で開催したものではなくて、国とか観光会社がレールを敷いたものにのっかって走る中で色々な仙北市のものを集めてパッとやっただけの話で、市単独としてやったものというのは何もない訳ですよ。ワールドカップもたざわこスキー場ではありますが、それなんかも仙北市で発案して企画してやるのではなくて都会のほうから本家本元からお願いしますよ・よろしいですよという場所を貸すような程度しか私らは考えていません。ですからそれをもってきたところで仙北市の皆さん方が「ああ良かったな、非常に物価も安くなったし、なんか懐も暖かくなった」ということはまずないと思う。ただワーワー騒いでまたパッと引かれてしまってあとは閑散としている。ですからそういうのではなくて仙北市で単独のもの、しかも全国的なもの、隣でやったからうちでもやりましょとか向かいで立てたからうちでも立ててみましょうではなくて、もっともっと、皆さん方は知恵がある訳だからそういう知恵を集約しながら仙北市そのものを変えていく必要が何かあるのではないかと、市民の声というものは最大漏らさず集約しながらそれから選択してみんなで選択したものをまとめてまとめ上げて、もっと新しい仙北市にしていってもらえれば幸いだなと思いますし、その点ではパブリックコメントも大々的に利用して変えていったほうがいいのではないかと、私は年齢ではシルバー人材センターでなくてゴールドシルバーですから若い方々と一緒にこの席に座っていること自体が本当に光栄だと思っています。ただ、言いにくいことだけれども、このままでは死にたくないなという気がしています。年寄りはいまあ言わせておけば良いというような考えもあるでしょうけれども、私の周囲の年寄りはもっともっと頑張るやらないきゃダメだよというような人もたくさんいますので、どうかひとつ年寄りの戯言というようなふうには聞かないで発展的な意見の一だと思ってお聞き願いたいと思います。大変失礼なことを申し上げて恐縮でした。

田口委員

私は農業のくくりで出ていますけれども、実は農業は皆さんご存知のように昭和58年度の米価が一番高い時代の半分以下になりまして、暗い話ですけれども、実は最近、合併前から色々運動していましたが日本の国の新産業としてグリーンツーリズム、これの土台が農業なんですね。だいぶお客さんが国内需要ということで入ってきましたが、5年ぐらい前からアジアを取り込もうということで、副市長もいますが現役の行政の担当の時から色々やっていました。つぼみが出てようやく花が開き出しまして、昨年マスメディアがだいぶ取り上げてくれましたが、ミャンマー・東ティモール・カンボジア、そして12月中旬には韓国から修学旅行ということで入ってきました、先週には農山村体験デザイン室から来年もまたということで予約をいた

だいたようです。海外から日本にお金が入るということは外貨獲得、もっと掘り下げて言えば仙北市にお金が入るとことは仙北市のお金が増えるということで一家の主人の給料が増えるというなんですね。結局つまるところその行政改革懇談会もそれに繋がると思うんですよ。これからひとつそのへんのところを市として国内需要のために、あるいは海外からの外貨獲得のために、どのような基本計画でそれに対する戦術・戦略なのかをお伺いしたいと思います。

倉橋副市長

今、石橋委員と田口委員からそれぞれ意見を頂戴しました。石橋委員の仙北市独自のものがなかなかないのではないかと貴重なご意見だと思っておりますが、昨年国民文化祭が開かれ、あれは秋田県として開催されたものですけれども、その中でも仙北市独自の取組みは多々あったと思いますし、何よりも仙北市として角館だけ田沢湖だけ西木だけということではなくて、それぞれの地域の方々に一緒に一つの事業に取り組んだ事例がたくさん見られて一つの成果であったと思っています。十分ではないと思いますが、ようやく仙北市独自のそういうものが出てきたのではないかとと思っています。

そして田口委員から言われた東南アジアの方々の受け入れのグリーンツーリズムが進められていますけれども、これなどは秋田県内でもあるいは全国的にも先進的な取組みではないかと思っています。市としてこれからの取組みについて聞かれましたけれども、まず一つはグリーンツーリズムを担当しています農山村体験デザイン室という部署がありますが、国際交流関係の事業をそこに集約することにして、海外に向けての市としての取組みは全てデザイン室に集約するという事で当面はアジアの方々に来ていただくことを中心にしていますけれども、来ていただくことあるいは逆に台湾あるいはタイに銀行さんで駐在所等を設けていますので仙北市のものをそちらに売り込む仕掛けはないものかということを進めているところです。まだ始めたばかりですので具体的な成果は立っていませんが、海外のお客さんに来てもらうことそれから仙北市の物産を海外に売り込む方策はないものかということこれから市として取り組んでいきたいと思っています。

大楽会長

合併してから間もなく10年経過しようとしています。私も合併に関わっていますが、その時に国で外国から1千万人観光客を呼ぼうというテンミリオン計画というのがあって、ここもそれに真似て観光客を1千万人呼ぼうということでテンミリオン計画を柱にしたのですがなかなかそれが達成できなくて、国のほうが中国あたりから最近見れば買い物客がドッと来るとか何とかで国のほうが先に達成してしまったような状況です。市長も東南アジア関係と言いましたが台湾とかなり親交を深めているようですし、やはり普通のアイデアではなくて先程石橋委員がおっしゃったようなドッと驚くよ

うな計画を立てれば台湾だけでなく東南アジアからお客さんがくるかも、日本国内に目を向けることも大事ですが、これから外国に目を向けることも観光で潤うということで合併した3町村ですので色々アイデアを頑張ってお出してもらって増やしてもらいたいと思います。

藤村総務部長

がんばる地域交付金の件ですが、要は職員数の削減と職員給のカット、これと国の国家公務員との比較で成果が上がったところが満額10ポイントという数字、仙北市では7.9ということですが、この比較が2013年ですので一昨年になります。国は24年度と25年度は震災対応ということで国家公務員の給料を7.8%削減しており、仙北市の場合は元々低いというのありましてずっとそのまま来ているということで対比のところでも下がらなかったという部分があって、10に対して7.9という数字になったということです。これは作想的に何かをやるとかというものではなかったので評価としてそのような数字になったということのようです。この指標が最大10になった時に補助率が40%でこれが最大だということで、仙北市の7.9であった時の補助率が37.9%であったということです。26年度の比較をすると国は元に戻しましたので対比でいくと評価としては上がる数字になったかと思いますが、今年はこのルールがないのでその比較はできませんが内容としてはそういうことで満額の10にはならなかったということです。

武藤委員

それを受けて例えば定員の関係とかそういうものをこの計画で目標達成してよくやったというようなことであるのだが、一步評価を次のレベルにいくとそれは7.9しか評価されていないということになると思います。今の計画は今の計画でそのとおりなのですが、次の計画を持つときに我々の目標をどこに持つかなんですね。だからそういうものに関心を持って是非生かしてほしい、仙北市の計画であれば自分たちの計画であればこうだということで満足はできないと思いますし、行政努力で格差があったと見出しもついていでしょう、ここのメンバーはなおさら皆さんこのぐらい頑張っているのになぜ評価が8割にも満たないのではないかというのはいかにも残念極まりないのでそういうことで申し上げました。

草薨委員

今武藤委員が言ったようなきちんとしたものが出てきて私たちもそうかという悪ければ悪いように良ければ良いように感じればいいのにそうでない、何かバフツとしているものだからどっちがどうだかということ、これからは結論付けてきちんとしたかたちの中・方向で行かなければ大変市政も困るのではないかと今の話しの中で感じました。

橋本委員

先程副市長から幼稚園・保育園の法人化に向けてこれから準備を進めていくということです。その中の目的の一つにパート職員や臨時職員の待遇を改善するというのもあると思いますが、関連することで放課後児童クラブというのがあって今度制度の見直しで小学校6年生まであずかることができるようになるということです。そこで働いている人たちはほとんどパートで2時間ぐらいの労働になっていますが、やはり子供をあずかるという責任の面を考えると全てパートの方々だけでは今後どうかなと思います。最低社会保険とかそういう部分に加入できるようにしてこれから責任を持って子供をあずかれるということが必要になってくるのではないかと思いますので、その点も併せて検討してほしいと思います。

それから、よく病院のスタッフの対応が悪いという話を聞きますけれども、私は退職して国保に加入しています。国保加入者が人間ドックを受けた場合に助成金が出るということで市内の病院で田沢湖病院を選んで2年ほどドックに行きました。一部に言われているように病院のスタッフの対応が悪いというように私は感じませんでした。受付の人、案内してくれる人、もちろんお医者さん、検査技師そういった方は大変丁寧に私は対応してくださっているなと感じました。田沢湖病院は施設も新しいですし医療機器も揃っています。人間ドックはスタッフの関係で無制限に受け入れることはできないと思いますけれども、あの状態であれば私は各事業所とかそういうところに人間ドックを受ける際は田沢湖病院を使ってくださいということが言えるのではないかと考えていますので、そのことも出来るのであれば病院のほうに伝えていただければと思います。

もう一つ再任用という制度があります。職員在職時代の知識と経験が必要な分野がもちろんありますけれども、中にはそうでなくても出来るのではないかと分野がもしかすればあるのではないかと思います。そういう部分については退職した職員を優先的に採用するというのではなくて民間の方でもそういう分野で仕事してみたいという人が中にはいると思いますのでそういう部分で公平に声をかけて働いてもらったらどうかと思いました。

倉橋副市長

橋本委員が言われことで、まず放課後児童クラブですが、来年度から子ども子育て支援新制度ということで新しく国でスタートさせることで、保育園・幼稚園については認定こども園の推進等ありますし、今言った放課後児童クラブは今まで小学校3年生までだったのが6年生までに、仙北市でそれぞれ6年生まで利用できるような制度にするということで、そこで働く指導員の方についても新たに研修制度ももうけて一定の資格要件を付与するというような、一般のただ子供たちを見ているだけではない位置に位置付けるということでしたので、待遇面については所管に確認させていただきたいと思いますが、これまでとはまた違ってくるかと理解しています。

また、病院の話がありました。ちょっと質問とは離れますが、角館病院の改築について市民の皆さんに大変ご心配をおかけしておりますけれども、先般の議会で追加の予算をお願いしまして今月の29日に再度入札が行われる予定になっています。それで落札業者が決まりますと具体的な事業に入っていくということになります。建物はそれでいけるのですが問題は中身だということは十分市でも理解してまして、先般の議会の際にも市長あるいは病院の管理者が直接角館病院の幹部の皆さんにお話しして、今から次のステップに向けた病院の体制について十分考えていただき、もちろん市民の皆さん、利用される皆さんに対する接遇等についてはあらためて注意喚起を行っていくことにしています。そして市内に市立病院が二つあるということ、それから診療所もあります。こうした連携がこれからなお一層必要になるということでその点についてもあらためて両病院長等も通じてお話しさせていただいています。人間ドックの利用等につきましても今言われたことを病院に早速伝えて業務促進を図りたいと思います。ただ、病院事業そのものの経営は非常に厳しい状況にありまして、今後相当な覚悟をもって臨まないといふ今の病院規模を維持するには大変厳しい状況にあるということは充分認識してまして、その点も含めて両病院の連携・診療所との連携がなお一層必要になると思っています。

それから職員の再任用制度ですが、これは年金の支給が遅れてきた関係等で、これは公務員ばかりでなく民間の会社も同じだと思いますけれども定年の延長等も行われている状況の中で、公務員としては再任用制度の活用で当面は対応してもらいたいという中で進めています。今は支給開始年齢が1年遅れで支給されることで、仙北市としては今の制度は再任用1年ということで希望されている方については再任用しています。その他に任期付職員の採用制度もありまして必要に応じてはそちらの対応も何件かあったところです。また、県内の他の市で社会人の採用制度も行われているところもあるようですので多様な人材の確保も必要だと思いますのでそこは充分検討させていただきたいと思います。

運藤総務部次長

先程の武藤委員からの交付金の基礎数値のことで捕捉させていただきませんが、25年度のラスパイレズ指数が使われていると思いますけれども、その時仙北市は国家公務員100に対して91.5でした。国が7.8%下げた場合に仙北市がどうなるかという試算をしまして、その時は99だったです。国が7.8%下げても仙北市は99という数字でしたので、国が下げたものに対して100以下の自治体については国にならって下げる必要はないという国の指導がありまして仙北市では下げていません。そういう関係で底の部分は仙北市の評価がおそらく下がっていると推測されます。

武藤委員

今ご説明のあった項目ラスパイレス指数、そういうものそれから職員給与はこの行政改革の項目にも入っていないので、そういう色々な方に関わる問題だと思いますのでそのような把握をしてもらいたいと思います。

また、別に行政サービスの観点から何点か申し上げたいと思いますけれども、1点は大楽会長もおられますが、行政相談委員の方にお問い合わせをして骨を折ってもらっていますけれども、NHKのラジオ第1放送の入りが非常に悪いということでご苦勞を願っていますが、1年ぐらい前になりますNHKではこの地域には難聴地帯は存在しないと認識しているということのようです。あえて言うならばラジオが悪いとかそういうふうなことかと思いますが、私はラジオを替えても秋田のNHKは入らない、前に聞いたことがあるのですが、NHK秋田から仙北市のどなたかにはわかりませんが、こういう事例が出てきているが本当に難聴地帯がありますかという質問に対して、把握していません、ありません、自動車では良く入りますと回答したということを知ったのですが、まさにこれは災害を経験する当市にとりまして、停電等になった時はラジオしか頼りにならない、しかもFMがあるじゃないかという人もいます。しかし確かにあるでしょうけれどもなかなか知らない、だからNHK第1のほうが入るような努力をしていただきたいということが1点、それからもう1点ですが、私の地域は冬になると水路があふれて床下床上ぎりぎりまで水が着きます。そういう関係もありまして色々相談して実は1年以上になるのですが、市の担当者にも来てもらって、今はどうにもならないので雪が消えたら測量だけでもしましょうということになったのですが今もって何も連絡がない、だから行政サービスの観点から色々皆さんご苦勞されているのですが、住民の側に立ったそういうことがないような感じがします。それから前にもこの会で申し上げたのですが、项目的には公平・公正な人事評価の制度ということで申し上げたと思いますが、申告制を引いているということで、言いづらいのですが地域に市役所職員の顔が見えないんですね、例えば地域の行事とかにほとんど出てくれない顔が見えない、地域の行事に参加したとかも自己申告の項目として取り上げていただいて積極的に正規に顔の見えるこれこそ行政サービスだと思うのですが、そういうことをしてほしいということを前回は市長がいたところで申し上げています。ずっと色々なところで申し上げている項目がその後どうなったかの報告もありませんので、忙しいかもしれませんが次あたりに粗々で結構ですので委員の皆さんが申し上げられたことがどのように検討される、また採用しているのかということも聞きたくなりますのでよろしくお願いします。

大楽会長

ラジオの件につきましては私が行政相談委員としてNHKのラジオが聞こえない、第2放送は電波が強くて聞こえる、FMも聞こえるのですが、第1ラジオ放送が全然聞こえないということで、角館高校が甲子園に出た時も



ラジオ第1でしかやらなかった時に非常に聞くのに難儀した記憶があるので、行政相談委員の意見として秋田行政評価事務所に提出しました。それで秋田行政評価事務所のほうでNHKの秋田放送局にヒアリングしてもらった結果が、今武藤委員に写しを差し上げましたが、そういう難聴地帯ではないという回答をもらった経緯です。本当に聞こえないです。実際は田沢湖も西木も角館も全部ほとんどNHKラジオの難聴地帯だと思います。デジタルテレビになってからは全世帯が映るようにNHKはすごく良くやっているが、ラジオのほうはおろそかにしているような状況だと思います。

倉橋副市長

水路は久保側ですか。

武藤委員

男坂です。何回も来てもらちが明かないもので、行政相談委員にもお願いして、去年の今頃も雪が消えたら行ってみましようという話でした。難波行政相談委員の方に相談してもらえれば。

倉橋副市長

わかりました。いつも言われていますので。

石橋委員

副市長にお願いですが、これから予算のかかる時で、角館の病院建設は大変喜んでいますが、ただ、どの程度の高度医療になるものかということに関心を持っている訳です。今現在のところはちょっと難しいと大曲に走って行ったり秋田からドクターヘリを持ってくるという状態なので、これから予算もどンドンかかるし大変なことだと思いますけれども、どうか高度医療に向かって角館病院で大概のことができるというカタチを作っていただきたいなと思っています。お願いします。

藤村総務部長

設備的には一定のレベルのものを当然やるのですが、要はお医者さんなのです。ただでさえ足りないというのもあるしやはり専門の科がなかなか全部揃わないというところがあってどうしても3次医療というか秋田市とかという話になってしまいます。それぞれの専門医が揃えば一定の高度医療は可能になると思いますけれども、まあそれ以前にまずはお医者さんの数を揃えなければというところまでしか今は取り組めないという状態です。施設の的には一定の高度医療が可能な部分は整備しますし、専門医のいる診療科については結構な高度な治療も出来ると思いますけれども、例えば呼吸器とかとなるといないものですから一般の内科医が見てこれはというケースはやはり転院というようなカタチになる、それから麻酔科医も専門医がいなくて複雑な手術等になれば手配し来てもらってということで、緊急な場合はなかなか対応できないという現状としてはそういう状況です。将来的には今おっしゃったほうに向かいたいと、病院経営としてもそちらのほうを経営上有効

になりますのでそういう思いはありますけれども、なかなか現実今新しい病院になったからといってすぐにスタッフが揃うかという話しになると、努力はしますが確約はできないという状況です。

石橋委員

難しいけれどもそういうご努力をお伺いできればと思います。年寄り連中はみんなそういう心配をしています。

藤村総務部長

幹部の方々はそのような思いもありますけれども現実がなかなか揃わないということが実態だということです。

倉橋副市長

出来るだけ頑張ります。

草薙委員

その答えしか出ないと思います。私もかなり高齢だが今石橋委員が言おうとして当然そういうカタチにならなければいけない時代ですが、そこまで到達するまで我々が生きていることはできないと思います。だから自分の身体をいかにきちんと管理していけるかというところまで考えなければ、自分自身がそのところをわきまえて対応するようなカタチになっていかなければ大変だと思っています。

石橋委員

何か仙北市は東北一全国一というようなものがなければ活性化できないと思います。私が今しゃべると皆さん笑うかもしれないが、日本一の老人ホームを作ったほうが良い。日本中から全部お年寄りが来るような、仙北市に行くとなんか施設が完備しているから良いですよと、老人の里、そうすると仙北市は老人で溢れるかもしれませんが、もし、これは夢だろうけれどもそういうものを作らないと活性化なんかなかできない、だから人と違うことをやらないと活性化はできないと思います。老人の里なんて変に感じるでしょうけれども。それから、この前に台湾から観光客がいらっしやいましたね。その時に機内食の前に色々お茶菓子が出るでしょう。そういうものも仙北市特産のものを台湾から乗る時に仙北市のお菓子でもいいし何でもいいから仙北市特有の特産のお菓子というものを観光客の皆さんに事前にお茶菓子にして渡してしまう、それが美味ければ必ず買って行くんです。そういうことも考えてささやかながら産業の振興にしたほうが良いと思っています。

大楽会長

それでは、まだ色々ご意見もあろうと思いますが、時間もまいりましたので第1回目の行政改革懇談会を終了したいと思います。次回は議会もありますので3月末なのか年度を超えるかということだと思います。あとは先程要望があったとおり今年度26年度の進捗状況を出来るだけ話すと27年

度の目標をある程度明確にしてもらおうとか、新しい資料を出していただいて開催したいと思います。今月に入って雪もだいぶ落ち着いていますが、今日角館から来る途中に国道の除雪・排雪を3か所ぐらいでやりましたがまた明日あたりから寒波が来るそうですのでまだまだ油断できない時期だと思います。どうか次回までどうかお元気をお願いします。事務局から最後に何かあるそうです。

事務局

最後までお詫びになってしまい申し訳ありません。開催時期そして資料の内容につきまして事務局の不手際、ひいては私の不手際なのですが申し訳ありませんでした。任期は5月23日までですので新年度に入ってから26年度の進捗状況を見込みの段階の数字も全部反映させて25年度と26年度の2年分を見てもらうようなカタチになろうかと思いますが、そういう資料の作成をしたいと思います。あとは今日言われました例えば地域運営体の件ですとか、これまでの委員の皆様が発言に対する進捗状況、そういったものがどうなっているかということも含めまして次回に資料としてお出しできるようにしたいと思いますのでどうかそのおつもりでよろしくをお願いします。いずれ次回は5月になろうかと思います。よろしくをお願いします。以上です。

大楽会長

それではこれで終わります。

（12時10分終了）